

川又正智先生のご逝去を悼む

岡田 保良

Obituary for Professor Masanori Kawamata (1946–2016)

Yasuyoshi OKADA

先輩！何を急いだというのですか。告別の日、祭壇の前にそんな思いが繰り返し心底から湧き上がった。2006年から2か年、本学会の会長を務められた川又正智先生が、昨年（2016年）12月21日、亡くなられた。ご家族のご心痛、如何ばかりかと拝察する。まことに急な驚愕の訃報であった。

1946年5月生まれで、ちょうど70歳。ご逝去のとき、先生は国士舘大学文学部と大学院の教授として東洋史専攻を担当され、この3月で勤続を全うされるところだった。遡れば、京都大学大学院の博士課程を修めたのち、国士舘大学イラク古代文化研究所の設立メンバーとして故藤井秀夫初代所長の懇請を受け、1976年4月に着任。翌年、まだ京大在籍中の私を連れ、ハムリン盆地遺跡群の調査にとりかかることになる。松本健、小谷伸男両氏ともども、水道も電気もないイラクの片田舎にはじめてキャンプを構えたのだった。1980年、私も研究所の一員となるが、旧知の川又先生が赴任されていることがどれほど心強かったことか。

1971年に始まるイラク、アッタール（Al-Tar）遺跡での発掘が研究所の原点だが、その骨格作りに果たされた川又先生の功績は、如何ほど強調しても過ぎることはない。そのことは「イラクを中心とするユーラシアの古代文化の研究を行うことを目的とする」と研究所規程が明言するこ

とからもうかがい知ることができる。私自身、調査することに加えて、資料・蔵書を充実すること、研究成果を出版すること、を研究所の三大事業とし、そのためには学外の方々に参画いただく共同研究員制度が欠かせないとして、つねづね大学と渡り合っているところだが、それらはみな川又先生直伝の研究所理念にほかならず、今なお同僚諸氏が共有する。わが国では稀有というべき西アジア関係の蔵書にも、1980年発刊で継続する機関誌『ラーフィダーン Al-Rāfidān』にも、先生の志が息づいている。

先生は学生指導にも意欲を示し、1993年、研究所から教養部へ、さらに文学部へと学内での籍を移され、担当教科として、中国考古学研究、ユーラシア学基礎、東西交渉史などが並ぶ。授業の準備に時間と労力を惜しまなかったとは、ご家族の言である。さらに、勉強会から数えれば間もなく四半世紀を迎える「草原考古研究会」でも、その当初から会の牽引役を果たされたと伺っている。もともと饒舌な方ではなかったので、ご本人は多くを語っておられないが、学問の上でも趣味の世界でも、常に本物志向だった。近藤英夫氏のあとを受け、本学会会長の職に就かれていた2007年、学会は十周年という記念の年を迎える。のちに『西アジア考古学の編年—日本の考古学調査団からのアプローチ』と題する出版につながる連続シンポジウムを開催するとともに、現在使用しているロゴマークの制作・



ハムリン盆地、1977年秋。ヌーリアミン村
(右端が故川又先生)



ハムリン盆地、1977年秋。川又先生雄姿

決定を果たしている。

ご自身の研究は先に記した通り、ユーラシアを西から東へ、東から西へと広く睥睨する観点にたち、騎馬による牧畜、先生をもってすれば「騎馬游牧」の世界に興味を定められていたようだ。とくに馬を御する技術と車馬・道具についての見識は他の追随を許さない。そこには常に相手と対峙する合気道や古武道という、先生が生涯大事にされた世界と通じるものがあったかもしれない。そうした切磋琢磨の成果は、1994年に刊行された『ウマ駆ける古代アジア』（講談社）として実を結び、つづいて編著『馬車の歴史—古代&近代の馬車—』（うまはくブックレット No.3、2001年）が出来する。さらにユーラシアといえばシルクロード、『漢代以前のシルクロード—運ばれた馬とラピスラズリー』（雄山閣、2006年）を単著で出されている。ほか多数ある論考のうち、「中国文献史料にみえる騎馬游牧民出現（漢代人の認識から）」と題する寄稿が、図らずもおそらく絶筆となってしまった（大沼克彦氏が代表する科研費研究「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」の成果図書『キルギスとその周辺地域における遊牧社会の形成』2017年1月刊）。最後に、近著『漢代以前のシルクロード』の「あとがき」に記された川又先生感懐の言を紹介しておきたい。



川又先生遺影

「メソポタミアのテルで羊群れを観ながら殷周銅器の牛羊をおもい、麦畑をみて餅や麵・パンのひろがりをおもうとき時、人類諸地域は孤立してはいないと感じたのである。」

この先、四面に困難な状況を抱える私ども研究所が、これから如何なる道を歩めばよいのか、今まさにそのご指南を仰がねばならなかった。先達を失ったその空隙は当分埋めようがない。返すがえすも口惜しい先輩の急逝であった。ご冥福をお祈りするばかりである。合掌。

岡田 保良

国士舘大学イラク古代文化研究所

Yasuyoshi OKADA

The Institute for the Cultural Studies of Ancient Iraq,

Kokushikan University